

第 13 回英語語法文法セミナー

テーマ「使える英文法：名詞をめぐる形と意味」

司会・講師 中山 仁（福島県立医科大学）

講師 大室剛志（名古屋大学）

講師 中澤和夫（青山学院大学）

講師 佐々木一隆（宇都宮大学）

日時：平成 29 年（2017 年）8 月 7 日（月）13:30～17:30

会場：関西学院大学梅田キャンパス 1405

（大阪市北区茶屋町 19 - 19 アプローズタワー10 階 1004 室）

プログラム:

- | | |
|-------------|--|
| 13:30～13:40 | 会長挨拶とセミナー世話役からの全体趣旨説明 |
| 13:40～14:20 | 中山 仁（福島県立医科大学）
「ものの見方・考え方に応じた名詞句の使い分けについて考える」 |
| 14:20～15:00 | 大室剛志（名古屋大学）
「修飾との関係で名詞の意味の中身を探る」 |
| 15:00～15:10 | -----休憩----- |
| 15:10～15:50 | 中澤和夫（青山学院大学）
「名詞句の内と外」 |
| 15:50～16:30 | 佐々木一隆（宇都宮大学）
「文的名詞句の正確な解釈から効率的な表現法へ」 |
| 16:30～16:45 | -----休憩・質問用紙記入----- |
| 16:45～17:25 | 質疑応答 |
| 17:30 | セミナー終了 |

参加費(資料代を含む):2,000 円(当日、受付にてお支払いただきます)

※ 本セミナーは、学会会員以外の方を含め広く開かれているものですのでどなたでも自由に参加できます。会場収容人数(定員 80 名)の関係から、参加ご希望の方は平成 27 年 7 月 31 日までに、件名を「セミナー参加希望」として segu.seminar@gmail.com までお知らせください。先着順で受け付けます。

各講師の発表概要

ものの見方・考え方に応じた名詞句の使い分けについて考える

福島県立医科大学 中山 仁

文法書に書いてある名詞・名詞句の語法と文法の記述は、一見すると無味乾燥な事項の羅列のように思えるかもしれない。しかし、ここには英語話者のものの見方・考え方や心の動きを垣間見ることのできる格好の題材が実に多く含まれている。今回は英語の名詞・名詞句に関わる語法と文法のうち、(1) **chopped onion(s) / mashed potato(es)** などに見られる名詞の数の使い方、(2) **Bananas are yellow. / I'm afraid of dogs** [***the dog, *a dog**]. などのように総称して(あるいは種を意識して)ものを指すときの名詞句と冠詞の用法、(3) ***the Tokyo's tourist attractions / a friend of Tom's** [**Tom, mine, *me**] / **one of my friends** などに見られる所有格とその類義表現の用法を取り上げ、その時々表現が、文法規則だけでなく、個々の名詞の意味や文脈、話者の意識に応じて選択されていることを示す。

なお、今回のセミナーで用いる「名詞句」という用語は、生成文法をはじめ、一般においてもしばしば使用されているものだが、高校の英文法で用いる「名詞句」とは異なるのが現状である。そこで、誤解を避けるために、文法観の違いに基づくこの両者の違いについても解説を加え、各発表の理解の助けとしたい。

修飾との関係で名詞の意味の中身を探る

名古屋大学 大室剛志

a bright bulb は「明るい電球」、**an opaque bulb** は「曇った電球」で一見よさそうですが、「電球」の一体何が明るいのか？電球の一体何が曇っているのか？と考え始めると、名詞の意味の中身を探っていき、形容詞が名詞のどの意味的側面を選択して修飾しているのかをよく考えないといけなくなります。**an old friend** は「老人の友達」ではなくて、普通は、「旧友」と理解されます。どうしてでしょう。**a long record** って、レコードは丸いわけですから、何が長いのかってことになります。**a good knife** って「良いナイフ」とだけ訳していいの？もう少し気のきいた訳としては、「良く切れるナイフ」が考えられるのはどうして？ **John quite enjoys his morning coffee.** 「目覚めのコーヒーを楽しむ」は「科学する」「お茶する」ほどではないにしても、何かいい足りなさを感じてしまうのはどうしてでしょうか。

この話では、こういった疑問に答えたいと思います。

名詞句の内と外

青山学院大学 中澤和夫

本発表では、名詞句について、2つの観点から様々な事例を整理し検討したい。ひとつは、名詞句の内、つまり内部構造を考える。もうひとつは、名詞句の外、つまり外部構造、換言すると、分布を考える。その際に、その名詞句の主要部に注意を向ける。もう少し踏み込んで言うなら、どのような「主要部」があるのか、さらに「主要部」が無い場合もあることを見、そういった事情を検討する。

この発表では、「使える英文法」というセミナーの趣旨を踏まえ、様々な事実をできるだけ網羅的に挙げて、いわば棚卸し的に事例を見ていきたい。若干の例を挙げるなら、以下のような文における「名詞句」の意味と構造と機能を考えたい。

There's [no computer that cheap].

[These difficulties overcome] makes the rest easy.

China is larger than [Japan and Korea combined].

[The closest we can come to that] is the *subject-predicate* construction of English.

North Korea said Tuesday that firing a barrage of missiles [a day earlier] was training
for a strike on U.S. military bases in Japan.

Five mice can live in a cage [the size of a shoe box].

文的名詞句の正確な解釈から効率的な表現法へ

宇都宮大学 佐々木一隆

英語の名詞句は実に多様で複雑である。それは Quirk et al. (1985) や Biber et al. (1999) のような文法書がそうした名詞句の記述を一つの章に充てていることから分かる。本発表では、こうした認識から、以下の下線部に示されるような文としての性質をもった名詞句に焦点を当て、その正確な解釈と効率的な表現法について見ていく。また、文的名詞句をめぐる形と意味の対応についても考える。

(1) The reviewer's hostile criticism of his play (Quirk et al. 1985: 1289)

(2) If someone has a stroke and resulting (partial) loss of language, their speech may be so replete with mistakes that they are hard or impossible to understand. (佐々木 2014: 54)

- (3) Given the rapidly expanding role of English in the contemporary world, it is hardly surprising that numerous books concerned with different aspects of English, both scholarly and pedagogical, are published every year. (佐々木 2014: 60)
- (4) Globally meth drug busts more than doubled between 2009 and 2013, partly due to targeted policing, but also to increased manufacture and trafficking. (佐々木 2016: 67)
- (5) A third and often more reliable criterion for determining a word's category involves the type of elements with which it can co-occur. (O'Grady et al. 2001: 187 地の文一部省略)
- (6) Many of the rescued passengers were first taken to the island by helicopters that then returned to continue the search. (河野 2012: 25)
- (7) I put in the day on the job, which I like, and I go home at night. That I also like. (FICT) (Biber et al. 1999: 900)
- (8) As for worldwide intelligence systems, their failures over the years have been colossal, a matter I and others have written about and that I cannot pursue here. (佐々木 2004: 59)